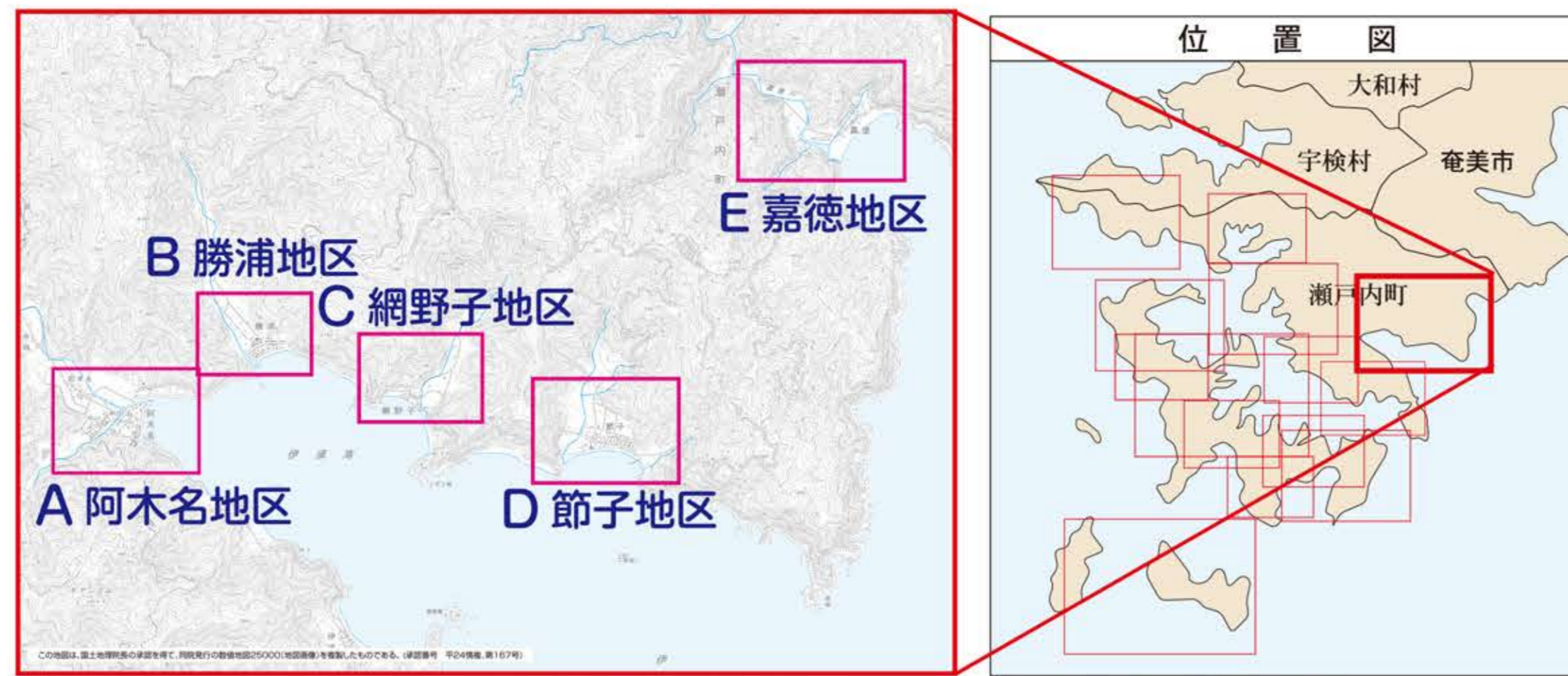


瀬戸内津波 防災マップ

避難の際には次のようなことに気をつけましょう。

- 避難する際は、がけ下や川べりなどをできるだけ避けた避難経路を選択し、やむを得ず通行するときは、十分注意しましょう。
- 溪流から直角方向に避難し、できるだけ溪流から離れましょう。
- ※高齢者、障害者など、災害発生時に安全な場所に自力で素早く避難することが困難な方々へは地域住民お互いが声をかけあい、助け合って、早めに避難を開始しましょう。

古仁屋地域

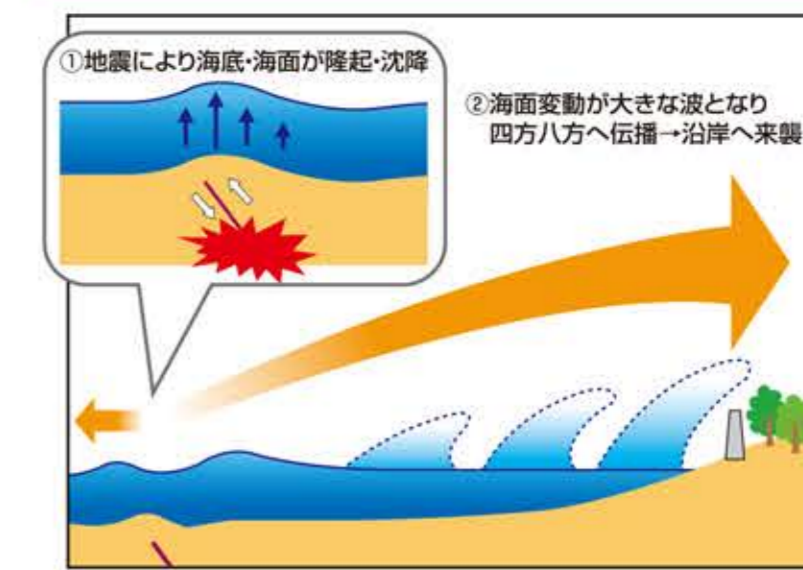


※地図上の標高色は国土地理院発行 2万5000分の1地図より航空写真上に表示したものであり、実際とは誤差を生じる場合があります。

～地震を感じたら高台へ～

- 避難準備情報が出たら・・・
家族等との連絡、非常用持出品の用意等、避難準備を開始して下さい。
- 避難勧告が出たら・・・
計画された避難場所等への避難行動を開始して下さい、なお津波の場合は避難道路及び避難地等の高台へ避難して下さい。
- 避難指示が出たら・・・
避難していない場合は、避難行動に移るとともに、避難場所への避難が困難な場合には、周囲の建物より比較的高い建物(鉄筋コンクリート等の堅固な建物)の2階以上(斜面と反対側の部屋)に避難する、また津波の場合は避難道路及び避難地等の高台へ避難するなど、生命を守る最低限の行動をして下さい。

津波の発生



地震が発生したら、テレビやラジオ等をおして津波情報を入手することが大切です。波情報には、常に注意しましょう。

安全な場所に避難する。



津波警報等が発令された場合や強い揺れを感じた場合は、海岸沿いから速やかに高台に避難しましょう。また、津波は第1波より第2波、第3波の方が高くなることもあります。津波は繰り返し襲ってくるので、警報、注意報解除までは気をゆるめないようにしましょう。

津波情報に注意する。

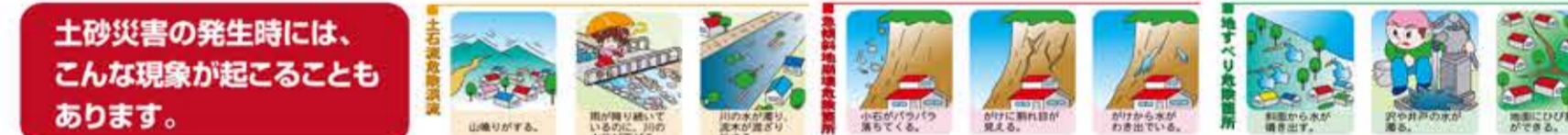


地震が発生したら、テレビやラジオ等をおして津波情報を入手することが大切です。津波情報には、常に注意しましょう。

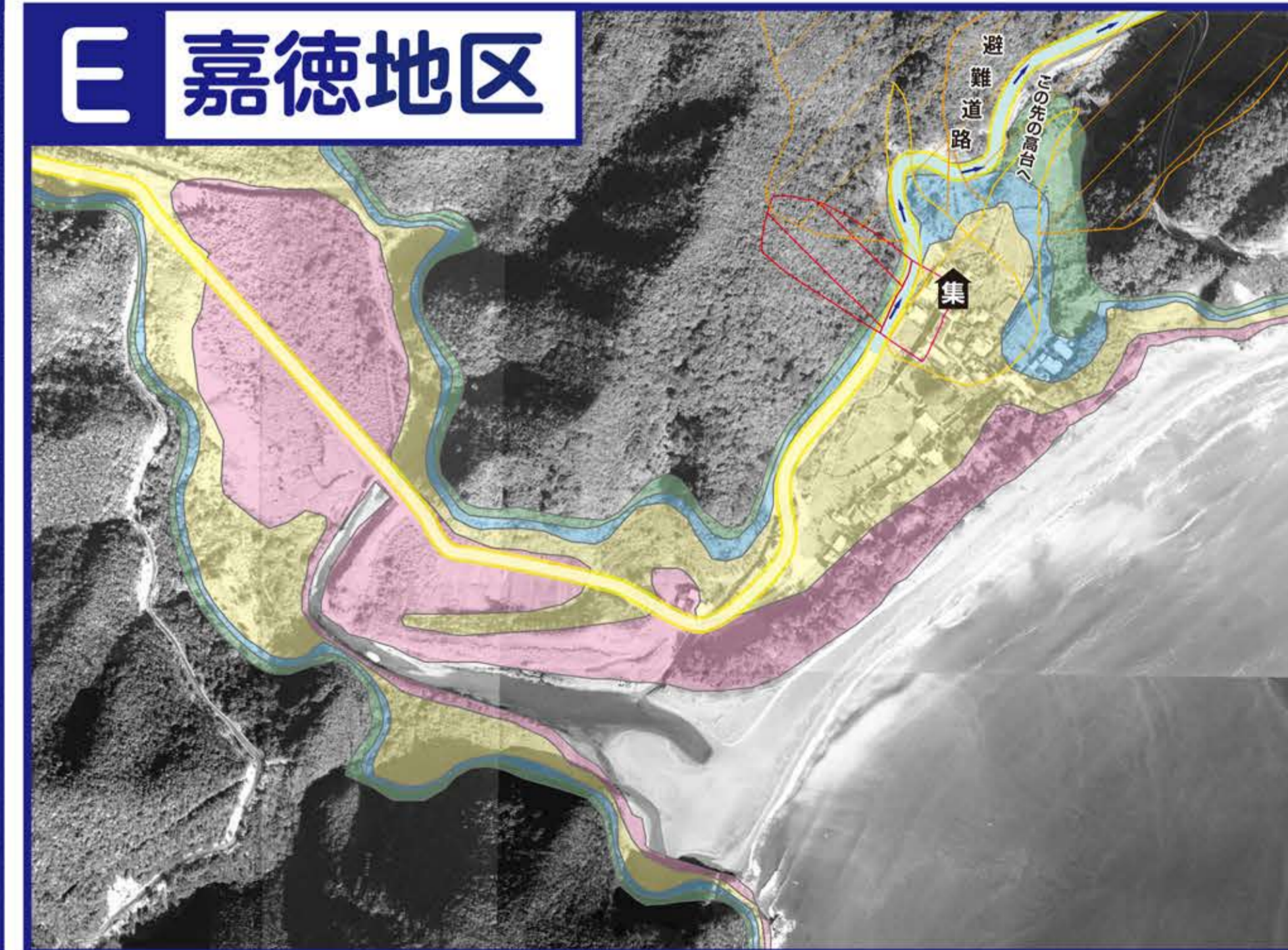
津波の速さ



津波は、海が深いほど早く伝わる性質があり、沖合いではジェット機に匹敵する速さで伝わります。逆に、水深が浅くなるほど速度がおそくなるため、津波が陸地に近づくとつれ、後から来る波が前の津波に追いつき、波高が高くなります。



		凡例			
避難場所		海抜区分	0~5m	15~20m	
集会所			5~10m	20m以上	
避難道路			10~15m		



凡例	土石流危険溪流	急傾斜地崩壊危険箇所	地すべり危険箇所
	谷方の地形を形成している区域です。この区域に降った雨が、流域に集め、時には土石流を引き起こします。		
	地形条件等によって土石流の堆積や氾濫が予想される区域です。		